

はじめに

2006 年の日本の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比 8.2%増の 6,473 億ドル、輸入が 11.7%増の 5,793 億ドルとなり、輸出は 5 年連続、輸入は 4 年連続で拡大しました。輸出の拡大は円安と好調な世界経済が背景、輸入の拡大は原油輸入価格の高騰が背景にあります。

地域別にみると、中国への輸出が前年比 15.6%増の 929 億ドルと大きく伸び、電子部品などの電気機器、原動機などの一般機械が好調でした。中国からの輸入は金属製品等が牽引した一方、石炭の輸入減のため 1,185 億ドルで前年比 8.6%増にとどまりました。米国への輸出も自動車为好調で前年比 8.0%増の 1,457 億ドルでした。米国からの輸入は 681 億ドルで前年比 5.5%増でした。

日本の貿易相手国の第 1 位は輸出がここ 10 年米国で、第 2 位は 2001 年より中国が占めています。輸入は 2002 年より中国がトップで、それまで第 1 位だった米国が 2006 年も第 2 位の地位を保っています。2006 年の輸出相手国の 3 位以下は韓国、台湾、香港、タイ、ドイツ、シンガポール、英国、オランダとなっており、輸入相手国の 3 位以下はサウジアラビア、アラブ首長国連邦、オーストラリア、韓国、インドネシア、台湾、ドイツ、タイとなっています。

このような状況のなか、伏木税関支署統計によると、富山県管内の 2006 年の貿易は、輸出が 2,092 億 9,298 万円（前年比 31.9%増）、輸入は 3,196 億 3,857 万円（21.9%増）で、総額 5,289 億 3,156 万円（前年比 25.7%増）を達成し、4 年連続の 2 ケタの増加を記録しました。この増加の背景には、環日本海諸国（中国、ロシア、韓国）と富山県との貿易拡大が大きく寄与しているようです。

本調査は 2007 年 11 月、富山県内の事業所 1,473 社に対し調査票を送付し、調査にご協力いただいた 211 社の回答をとりまとめたものです。本書が関係各位の皆様の参考になれば幸いです。

最後に本調査にご協力いただいた県内企業、事業所の皆様にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

富山県
(財)富山県新世紀残業機構
日本貿易振興機構
富山貿易情報センター
(ジェトロ富山)